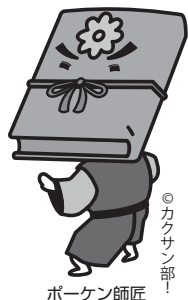


日本共産党は、戦後70年の節目の年が日本とアジア諸国との「和解と友好」に向かう年になるよう力をつくします。そのために、日本の政治がとるべき5つの基本姿勢を提唱します。

戦後70年



©カクサン部
ポークン師匠

5つの
基本
姿勢を

日本とアジア諸国との
「和解と友好」に
向かう年に

日本共産党

①「村山・河野談話」

「村山談話」「河野談話」の核心的内容を継承し、談話の精神にふさわしい行動をとり、談話を否定する動きに対してきっぱり反論する。

②日本軍「慰安婦」問題

被害者への謝罪と賠償など、人間としての尊厳が回復される解決に踏み出す。

いまこそ憲法9条のチカラを

「北東アジア平和協力構想」を提唱

北東アジアには緊張や紛争の火種がありますが、それに軍事で構えたら、「軍事対軍事」の悪循環に陥るだけです。日本共産党は、東南アジアで実現している“紛争を話し合いで解決する枠組み”を北東アジアにも拡大する「北東アジア平和協力構想」を提唱しています。

③靖国参拝

国政の場にある政治家が靖国神社を参拝することは、侵略戦争肯定の意思表示を意味するものであり、少なくとも首相や閣僚による靖国参拝はおこなわないことを日本の政治のルールとして確立する。



靖国神社

④ヘイトスピーチ

民族差別をあおるヘイトスピーチを根絶するために、立法措置を含めて、政治が断固たる立場にたつ。



⑤教科書

「村山談話」「河野談話」で政府が表明してきた過去の誤りへの反省の立場を、学校の教科書に誠実かつ真剣に反映させる努力をつくす。

